

【令和3年度 授業改善推進プラン】

板橋区立 板橋第五中学校

【国語】

	7・8年生	8・9年生
■生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスメイトと共に、一生懸命授業に取り組んでいる。 ・7年生は、まず「聞くこと」に課題がある。 ・8年生は、まず「話すこと」に課題がある。 ・学力の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両学年とも全体的に落ち着いて授業に参加しているが、主体的に学ぼうとする姿勢にかける。 ・やつ得課題を含めた家庭学習の取り組みには差があり、学力差も大きい。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の徹底 ・毎授業の「振り返り」時間の充実 ・ICTの効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・「振り返り」時間の充実 ・ICTの活用
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・「話を聞くことの大切さ」を繰り返し指導するとともに、マグネットやスライドなどを用いることによって視覚的にも理解できるようにする。 ・ハンドサインやオクリンクなどを用いることによって、発言しやすい環境をつくる。 ・レベル別プリントやミライシードなどを用いることによって、自分の力に応じて課題に取り組むことができるようにする。 ・1単元につき1枚の振り返りプリントを用いることによって、自身の学びの繋がりを意識したり、他者の考えを知って自身の学びを深めたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「本時の目標」とともに、単元や教材を通した目標を提示し、身に付けてほしい学習内容の理解を深める。 ・終末の5分間を「振り返り」の時間として確保し、習得した学習内容や気づいたことを各自が記録できるように保障する。 ・学習内容によっては、「振り返り」の内容を、小テストや練習問題の形式を取り入れ、個々の課題を明確にする。 ・発言や質問をしにくい生徒の対応として、ICTの活用を含め、意見の共有化を進める。

【社会】

■生徒の状況	<ul style="list-style-type: none">・授業規律を守り、集中して学習に取り組んでいる。・積極的に発言・質問をする生徒が多い。・社会のできごとと授業内容を関連付ける力に課題がある。・家庭学習の習慣が身につけていない生徒が多い。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none">・新聞を読まない生徒が多く、社会のできごとを見聞きする機会自体が乏しい。・家庭学習の取り組み方がわからないために、社会の家庭学習を行っていない。・第三の観点について、中長期的な視点での生徒の調整力を見取る、材料が少なかった。・ICTの活用が、発表などの一部の授業に限られていたが、2学期からは、毎授業での活用を目指す。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none">・授業中にニュースの話題を取り上げ、新聞記事を示すことで、社会のできごとを身近に感じさせ、調べる習慣をつける指導をする。・重要語句の意味調べなど、家庭学習の取り組み方の具体例を示し、家庭学習に取り組みやすくする。・振り返りシートの活用により、単元のはじめと終わりでどのような考え方の変化があったかを評価し、生徒の中長期的な変化を見取る。・授業のまとめ、振り返りを毎回オンライン上に書き込む時間を作り、生徒が必ずchrome bookを開く機会を設ける。

【数学】

■生徒の状況	<ul style="list-style-type: none">・習熟度別少人数授業を取り入れ、個々の学力に応じた指導ができ、生徒は授業で質問等をしやすい環境である。・基礎コースと発展コースの人数の比率を1：2程度に設定しているため、基礎コースでは発言する機会も多く、間違えることへの抵抗が少ないため、数学は苦手でも積極的に授業に取り組んでいる。また、発展コースでは学力が高い生徒も多くいるため導入などの問題で、様々な生徒の考えを発信・共有できている。・各単元の利用の問題（文章題）や関数の問題が苦手な生徒が多い。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none">・授業で学んだ内容を、授業内では理解できても、時間がたつと忘れてしまう傾向がある。・読み解く力が弱いため、苦手意識から長文の問題になると読む前に諦めてしまう傾向がある。・基礎コースでは他者の考えを聞いたり、深めたりすることが十分にできていない。・根拠に基づき、筋道立てて論理的に問題を解決していくことが苦手な生徒が多く、課題解決のための取組を設定することが必要である。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none">・授業始めに前時の復習・確認を行うとともに、単元終了後に単元確認テストを行い、基礎学力の定着と生徒の理解度の把握を行う。また、単元確認テストの結果を受け、生徒の基礎基本の理解度に合わせてクラスの再編成を行っていく。プリント学習や小テストを行い、反復することにより既習内容の定着を図る。・理解度が十分でない生徒には個別に声かけをし、学習方法を提案したり、放課後の学習教室等で補充を行う。・読み解く問題については、課題を分割したり、スモールステップで確認したりしながら、自力解決できるように工夫する。・タブレット授業を通して自分の考えを他者と共有したり、他者の考えから学んだりする機会を増やす。・ICT機器等を活用しながら、視覚に訴えたり、操作したりするなど、課題を具体的に考えることを通して、根拠に基づき、筋道を立てて考えられるようにする。・授業の目標に対する自己の達成度をしっかり把握させ、課題意識をもった復習ができるよう助言する。

【理科】

■生徒の状況	<ul style="list-style-type: none">・授業は真面目に取り組み、特に日常の現象に絡めた内容に対する興味・関心が高い。・授業の内容が短期的には身につけていても、時間が経過すると忘れてしまう傾向にある。特に3年次での受験対策時に苦戦する生徒が多い。・基礎的な知識は備わっている生徒が多く、基本的な語句を問うような問題は得意とする生徒が多い。・文章で表現するような問題や、グラフなどから読み取る問題や、小数の計算を苦手にする生徒が多い。・話し合い活動はとても積極的であり、発展的な内容であっても前向きになれる生徒が多い。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none">・前後の単元とのつながりや、既習事項を意識した授業を展開や、復習を行わないと、既習事項を忘れてしまう状況が多い。・現象や原理を理解していても、文章で表現したり、口頭で説明したりすることが困難なことが多い。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none">・授業開始時には前時の復習を行い、本時に繋げる形で授業を展開する。・授業終了時には本時のまとめを行うとともに、次回の内容を示しながら授業のつながりを意識させる。・問題演習を数多く行い、基礎的知識の定着を図る。また、繰り返し行うことで定着度を高める。・話し合い活動やグループ活動を多く取り入れ、物事に対する思考力と問題解決能力を高める。また文章で表現する機会を多く取り入れ、言語能力の向上に努める。

【音楽】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年、前向きに課題に取り組んでいる。 ・実技の制限（歌唱ができない）がある状況下では、楽典（創作を含む）の指導、鑑賞の指導が中心となったが、多少難しい内容も集中して取り組もうと努力していた。 ・鑑賞課題は、全学年集中して取り組んでいた。
<p>■指導についての課題</p>	<p>実技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱教材は楽曲に関する内容項目の指導は実施したが、実技としては未実施。 ・7年生は元気に実技に取り組んだ。音価（音符や休符の長さ等）に関する基礎知識を少しずつ身につけている、理解に個人差があるので、2学期にていねいに復習を行う。 ・8・9年生は自分で創作をしたリズムを和太鼓で奏することができ、意欲的に創作・和太鼓実技を実施できた。音価の理解がまだ十分でない生徒もいるが、昨年向上した楽譜を理解する力がさらに向上している。 <p>創作・楽典</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的読譜力がついてきたが、楽譜を書く力は課題がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>実技・歌唱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（都や区のガイドラインに沿って）指導可能な時期にパート練習を中心に行う。頭声発声の理論、音程やリズムの確認を重点に実施する。 ・長い期間、歌唱実技に取り組めていないので、呼吸法など基礎的な技術をていねいに指導する。 <p>実技・器楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸発表会に向けて、和太鼓の合奏は、姿勢や動作等基礎的奏法を復習しながら、クラス全体での合奏を深化させる。 ・7年生は、和太鼓の姿勢・基礎奏法を細かく復習し、重心移動による効率のよい奏法を指導する。 ・8・9年生は、楽譜をより精密に読み取り、表現・音色を工夫して合奏できるようにする。 <p>創作・楽典</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作をする小節の長さを増やせるように、記譜上の規則の理解を深め、自作のリズムを書けるようにする。

【美術】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none">・授業に取り組む姿勢は、良好で、自分の作品を工夫しながら一生懸命制作する。また他の生徒作品の良い所に気付くことができる・発想構想面が苦手な生徒がいる。・一生懸命制作しすぎて時間がかかる生徒がいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none">・自己表現を豊かに発想し、計画的に制作できるようにする。・授業の目標は理解されているが、振り返りを効果的に行えない時がある。・質問や発言が活発に行われない。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none">・キーワード提示の仕方やワークシートを工夫し、美術室の図鑑なども紹介、するなどして発想構想を豊かにすすめられるようにする。またchromebookの効果的な使い方を考える。・本日の目標とともに自分の目標に合わせて毎日の振り返りの記述を具体的に書くように指導する。・自己の制作に集中し作業する時間と、話し合いながら工夫していく時間のメリハリをつける授業を展開する。

【保健体育】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年、ほとんどの生徒が前向きに授業に取り組むことができている。 ・コロナ禍で制限が多い中、体育実技や意見を発表する活動に考え、工夫しながら取り組む姿勢が見られた。
<p>■指導についての課題</p>	<p>【体育実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で話し合い活動が十分に行えない。 ・自ら考え主体的に授業に取り組むことができる生徒が少ない。 ・生徒によって運動能力や目標にかなりの差が見られるため、個々の目標設定を明確に行う必要がある。 <p>【保健】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を流れとして理解している生徒は多いが、実生活と関連付け理解している生徒が少ない。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>【体育実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動にタブレットやICT機器（ジャムボードなど）を活用する。 ・生徒自ら考えて、活動を選択する活動を取り入れる。 ・ワークシートなどを活用し、個々で目標設定を自ら行うことで、目標を視覚化することができる。また、指導を行う際もレベルに合わせて選択肢を作り、生徒が自分の目標にあったものを選択できるような環境作りを行う。 <p>【保健】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実生活と関連付けた授業を展開するため、生徒の身近なニュースを取り上げることや振り返りの活動の中で自分の生活と関連させてまとめる活動を行い、理解を深めることを目指す。

【技術・家庭】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や実験などに興味をもって取り組む生徒が多い。 ・生活に身近な題材に関心を示す生徒が多い。 ・授業に集中できない生徒がいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業進度の差が出た時の対応の仕方 ・作業手順や、作業のポイントの指導の仕方
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の関心・意欲の高い教材を使用し、意欲を継続させる。 ・板書を整理し、重要事項をわかりやすく示す。 ・確認テストを実施し、生活に関わる基礎的・基本的な知識の定着を図る。 ・実物教材やICT機器等を使用し、視覚に訴えることで関心・意欲を高め、知識や技能の定着を図る。 ・実用性の高い教材を扱うことで、意欲的にもものづくりの活動をさせる。 ・自分の生活の中から課題を見つけ、学んだことを生かして自分や家族の生活をよりよくしようとする姿勢を育てる。 ・生活と関連付けて知識や技能を習得させることで、自分や家族の生活を工夫・改善する姿勢を育てる。 ・実習時には、自分の取り組みを振り返り、次回に向けての改善点を考えさせる。

【英語】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス単位で授業をしており、学力を配慮した座席を指定し、ライティングのチェックなど教え合いがしやすい環境である。真面目に、かつ活発に取り組む生徒が多い。 ・授業中に繰り返し音読、小テスト、文法のまとめ、練習問題への取り組みを行っており、文法・語彙の基礎を身につけている生徒が多い。 ・リスニングに不安をもつ生徒が多い。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度よりスピーキング力を改善する授業の展開が必要である。(受検科目に即興性のあるスピーキングが追加される可能性があるため) ・リスニングのスキルを具体的に教える必要がある。 ・家庭学習を身につけさせるような指導が必要である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは年に2回程度、ALTとのコミュニケーションテストしか行っていなかった。その改善として <ol style="list-style-type: none"> ①話すことを重点とした授業を増やす ②生徒に振り返りをさせ、教師から適切に助言をする ③年3回、段階に応じた即興性のあるスピーキングテストと、それに対する事前指導を行う。 ・これまではリスニングの練習問題と答え合わせをすることのみだったが、この改善策として <ol style="list-style-type: none"> ①メモの取り方・英語独特の発音・なぜ聞き取れないのか・自分でできるリスニン練習方法等を授業内で取り扱う。 ②聞き取った後に、その内容を振り返る学習活動を増やす。 ・家庭学習習慣をつけさせるために <ol style="list-style-type: none"> ①具体的な家庭学習内容を提示し、家で机に向かうよう促す。 ②家庭学習内容に基づいた小テスト等の反復テストを行う。 ③反復テストの振り返りをさせる ④個人差があるので、必要に応じてより深められるような声掛けを個別に行う。